



「嵐なび」の外壁デザイン（一部加工）

建物の外壁は、駅のホームから一望できます。外壁のデザインコンセプトは、この先、ずっと守り続けたい自然と日が昇り、日が沈み月が顔をだし星が輝くといった素朴であり平和な日常を願ったものです。

守りたい町の自然を 外壁にデザイン

大平山の麓から槻川（嵐山溪谷）が流れやがて都幾川に合流する河川を青のストライプで表現し、河川に沿ってラベンダー畑（千年の苑）や桜堤をイメージする紫・ピンクのストライプを施しました。

昭和25年3月、現在の観光協会の前身である武蔵嵐山観光協会が設立されました。昭和42年の町制施行に伴い同年7月「嵐山町観光協会」に改称しました。町名発祥の地である嵐山溪谷を中心とした観光振興に取り組み、設立52年を迎えています。

現在では、同協会が管理運営する嵐山溪谷パーベキュー場は、全国的に人気を博しています。駐車場には、関東圏外からのナンバーの車も見受けられます。また、民間情報サイトのBBQ&キャンプ場人気スポットランキングにおいて、2年連続全国1位に選ばれています。

このような事業を展開するなか平成30年4月には、一般社団法人 嵐山町観光協会として再スタートし、今までのふれあい交流センター内事務所から「嵐なび」の1階に移転しました。

窓口時間 8時30分～17時15分（12時～13時除く）
問合せ（一社）嵐山町観光協会 ☎81-4511

観光協会が法人化し、「嵐なび」へ移転



観光協会の
事務室です



関東エリアでは8年連続人気スポットNO.1

オープニングセレモニーが行われました

4月30日、5月1日の開設に先立ち、50名以上の来賓が集まるなか、1階のイベントスペース及び2階憩いスペース前においてオープニングセレモニーが行われました。



愛称は / 武蔵嵐山駅構内にオープン!! 特集 嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」



「まちの玄関口」から 地域の魅力を発信します

武蔵嵐山駅は、町の玄関口として多くの方々に利用されています。

平成2年5月に東西連絡通路が完成しました。平成14年3月には、東武東上線の複線化により、現在の橋上駅舎になりました。

しかしながら、駅と駅周辺の活性化は長年の課題です。近年においても、多くの方々と地方創生の検討をするなかで、「嵐山町の地方創生は、まず駅と駅前を活性化すべきではないか。」との意見が多く出されました。

こうした意見を踏まえ、平成26・27年度に外壁塗装等の老朽に伴う大規模改修工事を行い、東西連絡通路及び駅舎の外装を町のイメージカラーヘリニューアルを行いました。

東西連絡通路の内装は町の観光地などの写真やイラストを施し、また、デジタルサイネージ（液晶画面）の設置などを行いました。平成27年4月には、「嵐丸ひろば」がオープンし、子育て支援の拠点にもなっています。

さらに、平成29年度に、駅を拠点とした地域の活力を創出するための地域活力創出拠点を整備しました。

愛称の由来

この施設の愛称は、町民の皆さんより公募し、愛称選定委員会の審査と投票により「嵐山町ステーションプラザ『嵐なび』」に決定しました。

愛称の由来は、観光・就労・居住等様々な内容について町のナビゲーターの役割を担ってほしいという思いが込められています。

点とした地域の活力を創出するための地域活力創出拠点を整備しました。

この施設は、町を中心とした総合観光案内のみでなく、就労・居住等の相談、物産販売等、地域資源の連携と経済の好循環を創出し、稼ぐ力に磨きをかけることを目的としています。

町では、歴史や自然など観光資源への取り組みを積極的に進めています。「まちの玄関口」にあるこの施設において地域の魅力を発信し、嵐山町の活力の復活を目指します。